

栃木県市町保健師業務研究会

保健師だより

発行
栃木県市町保健師業務研究会
令和6年3月1日
第17号

《 会 長 挨 拶 》



栃木県市町保健師業務研究会 会長 生井 明美（下野市）
春色のなごやかな季節、会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

日頃より、本会の運営につきまして、ご理解・ご協力をいただき深く感謝申し上げます。

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が感染症法の改正により5類感染症に移行となり、各種保健福祉医療に係る計画策定の年でもありました。また、こども政策を社会全体で総合的かつ強力に推進していくための包括的な基本法として、こども基本法が施行され、こども家庭庁が新設されるなど、保健福祉医療の変革の年となりました。

そのような中、市町保健師は健康寿命の延伸、地域包括ケアの推進、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援など、様々な健康課題に取り組む一方、災害や次なる感染症への備えとして、平時と有事の対応の切り替えが重要となってきています。

さて、2023年5月に、奈良県立医科大学県民健康増進支援センターの研究グループが「人口当たりの保健師数が多い都道府県は、新型コロナウイルス感染症にかかる人の割合（罹患率）が低い。」また、日本の先行研究においても、人口当たりの保健師数が多いことは、健康診断やがん検診の受診者割合が高いことの有意な関連が報告され、長野県が健康長寿を実現した要因には、保健師活動によって、様々な健康問題に対する予防意識を地域に浸透させたことが挙げられております。[令和2（2020）年度末の人口10万対就業保健師数は、全国1位の長野県は82.6人、栃木県は50.1人]

令和5（2023）年4月の栃木県の市町保健師数は、516人、うち新規採用者は27名ですが、昨年度より全体で2名減少している状況です。また、8市町で昨年度より保健師数が減少となっており、保健師の人材確保が課題になっているのが現状です。

このような状況の中、私たち保健師が率先して、社会的貢献度の高さや、活躍できるフィールドの広さなどの「保健師の魅力」を発信するとともに、健全なワークライフバランスを実現しなければならないと考えます。しかしながら、日々の事業に追われ、保健師の魅力を感じられないこともあるかとは思います。そのような時にこそ、令和5年度のスローガン、「保健師同士の“つながり”を再構築し、市町保健師としての知識、技術、専門性を高め合いましょう」を実践し、会員同士エールを送り合い、前に進んでいきましょう。

また、会員の皆様は、長野県安曇野市にある「保健師資料館」をご存じでしょうか？この資料館は2001（平成13）年にオープンし、保健師活動の黎明期から今日までの保健師の歴史が分かる資料が揃っており、保健師の熱い歴史を肌で感じる事ができるそうです。正面には、開館10周年にあたる2011（平成23）年に建てられた等身大の「保健師の像」があり、この像は、保健師の活動を記念するとともに、東日本大震災で亡くなった9人の保健師の慰霊碑も兼ねています。訪れると、保健師活動の新たなヒントが見つかるかもしれません。

文末で恐縮ですが、本会の発展のため取り組んでいただいた役員の方々、並びに国保連合会の事務局の方々に深く感謝申し上げるとともに、引き続き、会員の皆様のご協力をお願いいたします。

《令和5年度 調査研究班活動報告》

副会長 齋藤 晃子（日光市）

調査研究班では、「市町の産後ケア事業の実態調査」をテーマに取り組んでいます。

産後ケア事業は、令和元年の母子保健法の一部を改正する法律により、市町村の努力義務として法定化され、第4次少子化社会対策大綱において令和6年度末までの全国展開を目指すこととされています。

現在、県内市町においても産後ケア事業が実施されておりますが、委託先の確保や市町を超えた複数の産後ケア事業所との契約等に係る事務の煩雑さ、事業の利用の要件や社会資源の違い等から生じる利用状況の差、産後ケア事業利用後の支援など、事業を実施している中で様々な課題が生じていると思います。

そこで、令和5・6年度の調査研究では、産後ケア事業における受託医療機関との契約事務や事業の対象者基準等について県内の共通課題の抽出及び明確化を行い、各市町の産後ケア事業の充実に繋げていきたいと考えております。

会員の皆様におかれましては、お忙しいところ大変恐縮ではありますが、調査票が届きましたらご協力くださいますようお願いいたします。

《令和5年度 研修広報班活動報告》

副会長 今里 澄江（足利市）

研修広報班では、今年度に本会が掲げたスローガンに沿い、保健師同士の“つながり”を意識し、今、市町保健師として知識・技術・専門性を高めるためにどんな学びが必要かを考えながら、研修会の実施と全国規模学会等への参加支援を行っています。

また、「保健師だより」の発行を通して、会員の皆様と役員がつながり、本会の活動がより充実したものになるように取り組んでいます。

今年度の研修会の実施にあたっては、できるだけ意見交換の時間を取るよう工夫をしたり、開催方法（集合・WEB・ハイブリッド）についても、多くの皆様に有意義な研修とするにはどうしたら良いか、意見を出し合い企画しました。

次年度も、皆様にご協力いただき、この会らしさのある研修・広報を目指していきたいと思っております。

●令和5年度実施研修会



第1回研修会 「自分も周りも勇気づける！セルフマネジメント術 ～いきいきとした保健活動をするために～」

株式会社ウェルネスライフサポート研究所 代表 加倉井 さおり 氏
ストレスフルな状況におかれても、質の高い保健活動がいきいきと出来るよう保健師自身のセルフマネジメントについて講話をいただきました。

人生で起こることは全てキャリアにつながり、ゆるぎないモチベーションをつくるには、仕事への目的意識を持ち、人生の目指したいビジョンを描くことが大切であると話がありました。「愛して、学んで、仕事をする」という言葉が私たちに贈られ、自分を愛し、目の前にいる人を愛すること。そして、日常のどんなことから学び続け、自分の可能性をあきらめず、活動・仕事をするということが、健やかに自分らしく幸せに生きることにつながるという力強い言葉に勇気づけられた研修会となりました。

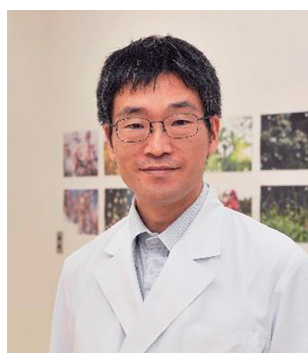
第2回研修会 「にんしんSOSとちぎの活動 ～相談の実態と市町母子保健への期待～」

一般社団法人 栃木県助産師会 副会長 小嶋 由美 氏

「にんしん SOS とちぎ」の活動や相談者の状況、支援の実態について講話をいただきました。活動状況としては、相談する年代は16歳から20歳の女性が多かったと多く、相談内容では「妊娠したかもしれないという不安」や「避妊」に関する相談が多いため、妊娠判定薬や緊急避妊法についての助言を行い、男性からも同様の相談が寄せられているという話がありました。



また、相談内容によっては居住地の保健師へつなぐ対応をしていますが、十分な個人情報が得られないこともあり、連携に躊躇するケースもあるとのことでした。今回の研修会を通して、思春期の性教育のあり方や、「にんしん SOS とちぎ」との連携の必要性など、妊娠期からの切れ目ない支援体制を考える機会となりました。



第3回研修会 「最期まで生ききるためのツールとしてのACP」

大東文化大学 スポーツ・健康科学部看護学科 教授 北田 志郎 氏

独居、高齢世帯の増加等、人々が「もしも」に備え、どのような医療・ケアを望むかを自分自身で前もって考えることが重要な時代になりました。厚生労働省では、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の認知度を向上するため、「人生会議」という愛称で、普及啓発を行っています。第3回研修会は、講師の経験談をもとに、ACP とは何か、地域での取り組み等について講話をいただきました。

ACP は、終末期か否かは関係なく、人生の締めくくりの時期を安心、納得して迎えるため、どこでどのように、何をするのか、自分がどうしたいのかを決めることです。何度も話し合いを積み重ね、その時間やプロセスを本人や家族、支援者が共有することが重要です。また、自分らしく生きていくためのACPを地域ぐるみ、特に子どもたちに啓発し続ける、松戸市医師会の取り組みは大変印象的でした。

保健師は人の生涯にかかわりを持つ職種です。だからこそ、ACPを深く理解し、住民の身近な相談者として、最期まで自分らしく「生ききる」ための支援を行い、その力を引き出す技術が求められていると実感しました。また、一人の人間としてどう生きていくかを考えさせられる有意義な研修会となりました。

●全国規模学会等参加支援の結果

学会等名	開催場所	日 程	支援先
第82回日本公衆衛生学会総会	茨城県つくば市 (現地開催)	令和5年10月31日 ～11月2日	1市町 (1名)
第12回日本公衆衛生看護学会学術集会	福岡県北九州市 (ハイブリッド開催)	令和6年1月6日 ～1月7日	6市町 (各1名)

《会員の皆さまへ》

本会は市長会及び町村会からの負担金並びに国保連合会からの交付金により事業が運営されており、調査研究や研修会を行い、住民の健康の保持増進と公衆衛生の向上に寄与するため、保健師の資質向上を目的に活動しております。

会員の皆さまにおかれましては、ご意見・ご要望等がございましたら所属支部の役員へお知らせください。

《役員からの一言》

	ブロック	役員	コメント
会長	県南	生井 明美 (下野市)	今回、会長を受けたのは学生時代の仲間が副会長だったから。そして、役員改選後の副会長も学生時代の仲間でした!支えてくれるのは、やっぱり仲間ですね!!感謝です!!
研修広報班	安足	今里 澄江 (足利市)	他市町の方と接する機会を得て、良い刺激をいただきました。次年度は、さらに、皆様と距離の近い活動ができたら良いなと思っています。
	宇都宮	日露 宏恵 (宇都宮市)	素敵な先輩方に導いていただき、無事に幹事を務めることが出来ました。貴重な経験が出来たことに感謝しております。ありがとうございました。
	県西	鈴木 恭子 (日光市)	研修広報班として研修会の企画・運営や、普段は関わりが少ない市町の方とつながりができる貴重な経験をさせていただきました。
	県東	稲荷山 愛 (茂木町)	幹事の皆様と交流を深めることができ、研修の企画・運営では保健活動を振り返る機会にもなりました。2年間大変お世話になりました。
	県南 (栃木)	落合 有美 (壬生町)	今年度から役員となりました。他市町の保健師の皆さまとの交流は、日々の大きな活力となっております。より充実した活動となるよう務めてまいります。
調査研究班	県西	齋藤 晃子 (日光市)	産後ケア事業の実態調査結果が皆様の業務の一助となりますよう調査研究班の皆さんと共に取り組んでまいります。
	県南	加藤 綾子 (上三川町)	産後ケア事業についての調査研究が、市町の皆さまの日頃の業務に活用できるよう取り組んでいきたいと思います。
	県北	中村 麻美 (大田原市)	他市町の保健師さんと交流を持てる場に参加させていただき、日々学ばせていただいています。役員として精一杯務めさせていただきますのでよろしくお願い致します。
	県北 (矢板・烏山)	齋藤 史江 (高根沢町)	研修会や役員会に参加するたび刺激を受け、保健師としての視野が広がっているように感じています。
	安足	中田 千絵 (足利市)	他市町の保健師さんたちとの交流もありとても良い刺激を受けています。不慣れな所も多いですが、精一杯務めさせていただきたいと思います。



編集後記



数年ぶりにコロナ禍前の生活となった令和5年度もまもなく終わろうとしています。本会の活動を通し保健師の皆様と繋がることができる喜びを改めて感じた一年でした。保健師の皆様が、地域に寄り添い住民や地域の輪をつなぐ活力となれるよう尽力して参ります。また、令和6年能登半島地震に際して、被災地への健康支援活動が続いています。支援に当たる会員にエールを送りつつ、各々の活動の場で、住民の命と健康を共に守っていきましょう。
(市町保健師業務研究会 役員一同)